

慶應義塾大学 主将
杉村晃希

はじめまして、慶應義塾体育会柔道部主将を務めます、杉村晃希です。まず、本大会の開催に際しましてご尽力いただきました関係者の皆様方に深く御礼申し上げます。

早慶戦とは、塾生であれば誰しものが憧れ、そしてそこでの活躍を渴望する夢の舞台です。他の試合では見られない特別な緊張感と熱量の中でひとたび活躍すると慶應柔道部で後世に語り継がれる存在となることができる。それほどまでに特別な意味を持った試合となります。

これまで私が経験した3年間の早慶戦を振り返ってみると、「試合展開が読めないところ」に面白さがあると思えました。他の試合にはないワンマッチの緊張感や20人の勝ち抜き戦という特別な仕様、体重無差別の組み合わせなど様々な要素が組み合わせ、想定通りに進まないのが早慶戦というものです。ほんの少しの試合展開の差から全体の流れが大きく変わり、下馬評とは真逆の結果になることも珍しくありません。先が見えない中で試合の流れを生み出し、良い雰囲気をつかむことができたチームがこの早慶戦を制すると私は考えています。

そしてこの流れを引き寄せることができるのが、今年の慶應だと思っています。大きな選手が揃っているわけではありませんが、各々が自らの強みを発揮できるように、日々考えて練習に取り組んできました。早慶戦ではその成果を十分に発揮したいです。

早稲田大学 主将
長嶋隼斗

今年度、早稲田大学柔道部の主将を務めております、スポーツ科学部4年の長嶋勇斗です。

まず、本大会を開催するにあたり、ご尽力いただいた両校OB・OG並びに大会関係者の皆様に部員を代表して御礼申し上げます。

早慶戦とは、早慶の大学生のみならず、見た人全員を惹きつけ熱い思いにさせる、そして憧れる夢の舞台です。高校時代から憧れていた早慶戦に、今年は主将として出場できることを非常に光栄に思います。

初めて20対20の勝ち抜き戦を目の当たりにした時の衝撃は今でも鮮明に覚えています。講道館ルールで行われるその試合は、凄まじい熱気を帯びており、技をかけるたびに上がる歓声は全日本選手権を彷彿とさせるような厳かな雰囲気があり、かつ活気のある不思議な空間でした。当時高校生だった私は、この早慶戦を見て早稲田大学に進学する決心をしました。この早慶戦の舞台で必ず活躍し、早稲田の一員として勝利に貢献したいと強く思いました。

私は、ついに4度目を迎えた今年の早慶戦は必ず勝ちたいと思っています。この3年間、早稲田は慶應に3連敗しており、非常に悔しい思いをしてきました。恩師である朝飛大先生が師範を務める慶應大学に勝ちたいという思いで早稲田大学に入学したのにも関わらず、一度も勝てていないという不甲斐ない結果に情けなさを感じています。

対する早稲田は、昨年に比べてどの選手を見ても穴がなく、重量級の選手もたくさん出場します。今年は慶應にとって大きな脅威となり、一瞬の油断も許されない戦いを強いられることになるでしょう。早慶戦に向けて高めてきた士気と、徹底してきた戦略をもって、「総力戦」でチーム一丸となって戦い抜きたいと思います。

今回は早慶戦 4 連覇がかかっている試合です。チームの大將として、主將として、責務を全うします。また、伝統であるこの早慶戦で戦えることを誇りに思い、必ず勝利を手にします。応援の程、何卒よろしく願いいたします。

主將として迎えた 4 度目の早慶戦こそは勝って恩返しをできればと考えています。そして 4 年間ともに頑張ってきた同期、後輩や今まで支えてきてくれた家族のためにも必ず勝利を手にします。

今年の早慶戦は、講道館ルールの 20 対 20 の勝ち抜き戦を講道館で行われます。3 年ぶりに私が憧れていた早慶戦の形が戻ってきました。今年は、部員たちのおかげで自信を持って強いと言えるチームになりました。厳しい稽古も乗り越え、励まし合いここまでできました。伝統ある早慶戦の舞台で戦えることを誇りに思い、強い早稲田を魅せて勝利します。

応援の程、何卒よろしく願いいたします。